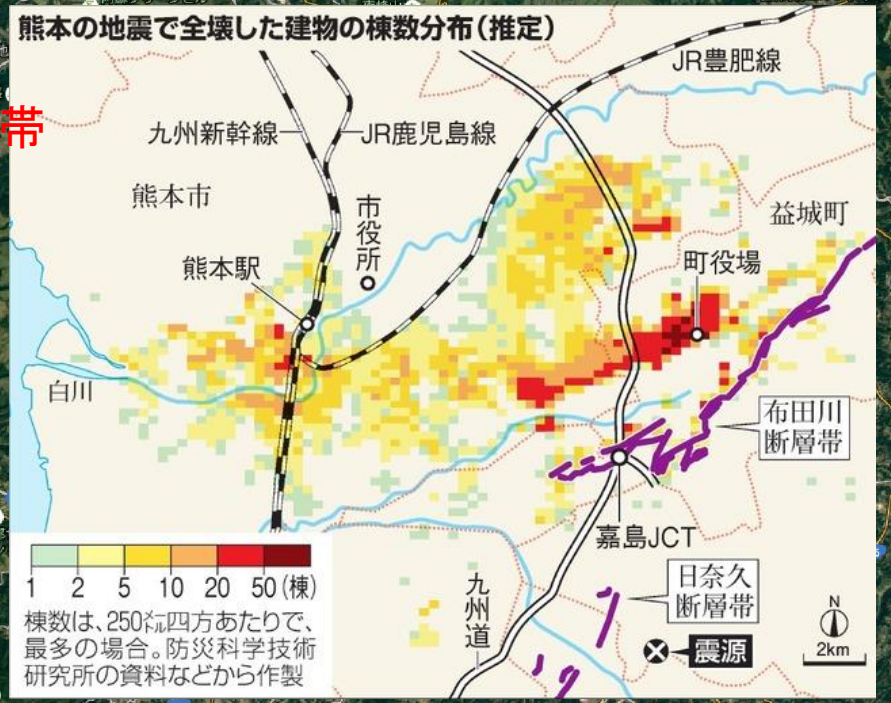
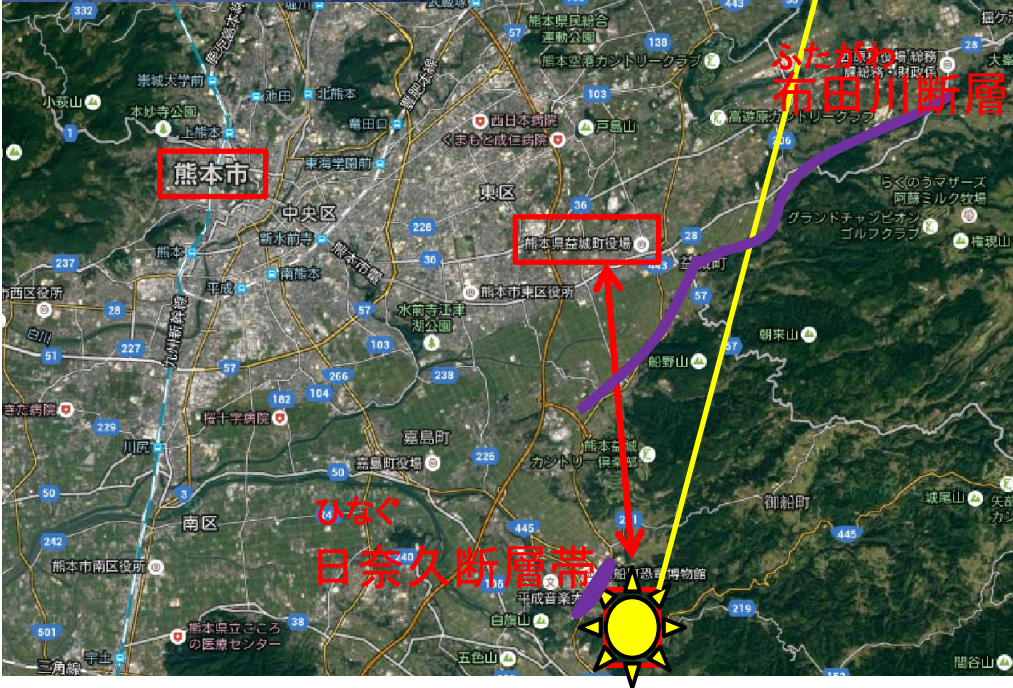
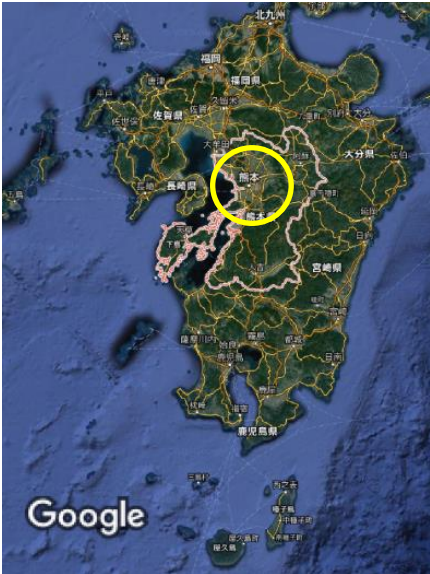


熊本地震における認定こども園における 課題と支援対策

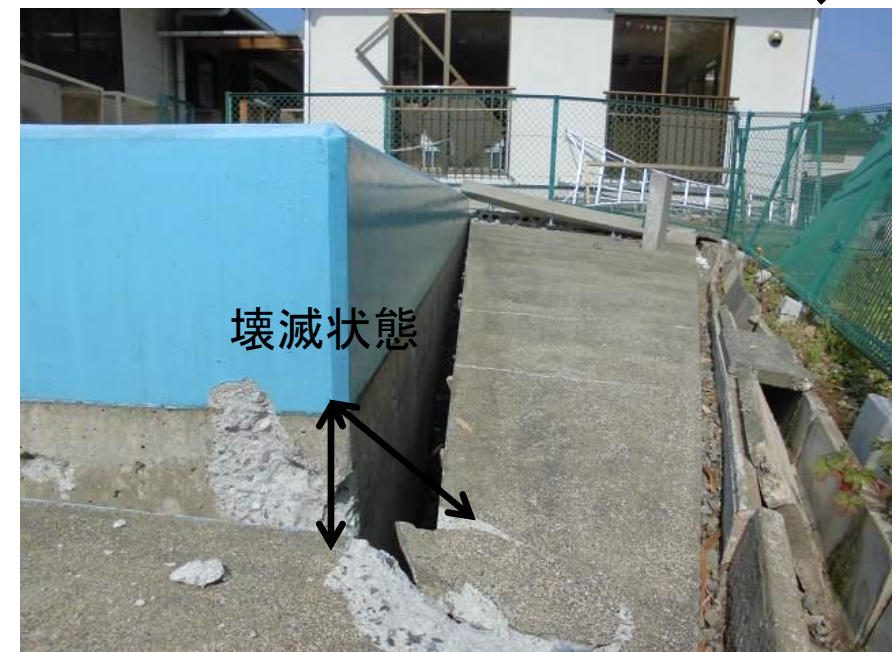
一般社団法人 全国認定こども園連絡協議会
会長 木村 義恭

被害園の位置関係

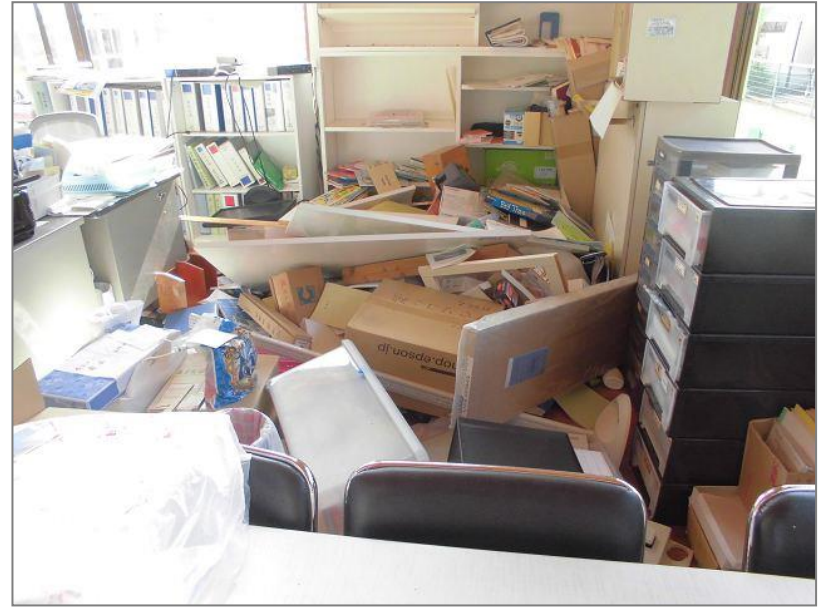
御船町の認定こども園は最大被害を受けた益城町から直線で10km



被害園の状況 園庭・外観



被害園の園内の状況



【 ハード面の支援 】

1. 復興にあたっては幼児に安心して教育・保育活動が展開できる環境整備が必要であるが
そのためには財政支援は必要不可欠である。

しかしながら認定こども園でありながら、類型(幼保連携型・幼稚園型・保育所型・地方裁量型)
によって財政措置にありかたに違いがある。

- ① 幼保連携型認定こども園および保育所型認定こども園・・・3/4(75%) 補助
- ② 幼稚園型認定こども園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7/12(58.3%) 補助

(※ 熊本地震における補助率、通常は1/3)

全ての施設に3/4公平な財政支援を



子ども・子育て支援新制度の理念は、すべての子どもに対し、質の高い幼児教育・保育を保障することにあります。
その理念の実現のため、類型の違いではなく公平に補助されるよう、制度の見直し早急に図ることを要望致します。

2. 幼保連携型認定こども園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うとともに、子どもの最善の利益を考慮しつつ、その生活を保障し、保護者と共に園児を心身ともに健やかに育成するものとする。当然環境を通して行われ、環境には園舎の設置場所は当然のことです。

今回の園地に多数の地割れが確認され、り面崩壊も懸念される状況の認定こども園について、次の課題がある。

当該園地の復旧が技術的に不可能な場合、別の土地への移築による園舎復旧に伴う土地取得は補助の対象とはならず、該当地に至っては農地法で制限されているため取得には長時間を要する。また復旧が技術的に不可能な場合は技術的な証明が必要という指導をうけている。



- ① 園庭に亀裂が走っている土地を購入する人は考えられず、国・都道府県・市町村が買い上げ、代替え地の確保等にするよう、また市町村が実施した場合は交付税措置することは必然と考えます。
- ② 公立・私立・施設の違いや認定こども園の種類の違いに関わらず、公平に支援されるよう見直し、早急に図ることを要望致します。

熊本の復興にあたっての取り組み

私にも出来る「READYFOR クラウドファンディング」

クラウドファンディングには一人でも多くの方が被災地園の支援プロジェクトを知っていただく事が大切です。

⇒⇒⇒ <https://readyfor.jp/projects/8925>

熊本震災で損壊した認定こども園に仮園舎建築の費用を届けます！

クラウドファンディングとは

クラウドファンディングとは、インターネット上で自分の夢や活動を発信することで、共感した人や応援したいと思ってくれる人を募り、支援金を集めることができる仕組みです



クラウドファンディングでできること



資金調達

やりたいことを実現するために、必要な時期に必要な金額を集めることができます。



PR

資金を集めるための行動を通じて、より多くの方にあなたの活動を知らせてもらう事が出来ます。



ファン作り

あなたの想いや活動の背景を伝えることで、長期的に応援してくれる賛同者を得られます。



こちら読み取り多くの方にお知らせください



木村 義恭

支援総額

265,000円

目標金額

1,250,000円

支援者数

13人

残り日数

59日

21%

このプロジェクトを支援する

(※ログインが必要です)



ご友人・お知り合いの方や、興味を持ってくれそうな方に支援と情報拡散のお願いをしましょう！



依頼した方からその方の周りの方へ、その周りの方へ...と支援の輪が広がっていきます！



支援があつまってくると、READYFORユーザーの目にもとまりやすくなります！